

## みやぎ生協

### ● 「2011 年度第 30 回通常総代会」

みやぎ生協では、8月3日(水)に2011年度通常総代会を終了しました。当初、総代会は6月14日に開催する予定でしたが、3月11日に発生した東日本大震災により、決算や計画などの大幅な見直しが必要となったため、8月に延期したものです。

みやぎ生協の総代数は1,100人弱で、例年の総代会では90%前後の総代が実出席という状況ですが、今年度は大震災の影響により、実出席は57%、また書

面、代理委任を含めた総出席者数は912人で出席率は86.5%で、例年より10%程度低くなりました。

しかし、7人の総代の発言全てが、被災を受けた方や被災地に対して行っている具体的な応援や支援に関するものであり、多くの困難な中で、メンバー間、生産者とメンバー、委員会活動など、生協における様々なつながりの強さを感じさせるものでした。



総代会は最後に、「みやぎの地域、くらしの復興を、協同の力ですすめましょう」という決議を大きな拍手で採択し、あらためてみやぎ生協の進むべき道を確認しました。

(総務部次長 五十嵐桂樹)

## 生協あいコープみやぎ

### ● 『地域復興と子ども達の未来のために脱原発を目指します』

あいコープみやぎは福島原発事故を受け、原発に依存しない社会を追求する活動方針を立てました。これまでも六ヶ所再処理工場等に反対してきましたが、新たに『子ども達の未来のために脱原発を進める委員会』を立

ち上げ、50人を上回る委員が組合員と共に細かく環境放射線量を測定できるシステムを作り、公では測りきれない通学路も測定し、除染すべきポイントを見つけています。

6月13日(月)には東北電力本社を訪ね、女川・東通原発の廃炉と再生可能エネルギーへのシフトを要請し、仙台七夕では「さようなら原発1,000万署名」の街頭署名活動も行いました。また、組合員同士で学習をしながら不安を共有し、汚染の中でも快適に過ごす為の情報交換が

できる『ぶんぶんカフェ』も常時開催しています。

さらに放射能汚染の状況や必要な正しい情報を得るために、6月13日(月)に田中優さん、8月3日(水)には宮台真司さんの講演会を開催。また8月5日(金)に小出裕章さん講演の賛同団体となり、学習を重ねています。

今後も9月に勝川俊雄さんによる海洋汚染学習会、11月には再び宮台さんを招き、脱原発の為の共同体自治と生協のあり方について学習する予定です。

(理事 高野恵美子)



宮台真司さんの講演会『原発を止める社会へ』

## 東北大生協

### ● 学業継続支援募金活動の取り組みについて

東北大生協では、被災された東北大学生の学業継続支援募金活動に取り組んでいます。

全国の大学生協では、今回の大震災を受けて、お見舞い金をおおくりする取り組みが行われています。これらを行う中で、保護者が亡くなる、あるいは実家が全壊するなどにより、このままでは学業を継続できず退学せざるを得ないという学生からの相談を多数受けました。

そのように被災された東北大学生は 300 人を超えますが、その被災された学生を支援するためには、たくさんの支援金が必

要になります。この募金活動の取り組みは、大学生を送りたい東北大学生を、助け、支え、励ますため、東北大学の仲間同士の助け合い、励まし合い、支え合いの活動として位置づけ、キャンパスのなかに被災学生支援の輪を広げています。また「学業継続支援基金」を創設し、他生協やお取り引き先様からもご賛同いただき、多くの募金をお寄せいただいています。

現在行っている経済支援策としては、主たる生計維持者が震災により亡くなられた東北大学生に、ミールカード通年タイプ



キャンパス内での募金の呼びかけ

を提供しています。

また、今後は、「通常総代会」などで寄せられたご意見・ご提案を参考に、被災された学生組合員の皆様への継続的な経済支援・見舞金について検討していきます。

(理事会室長 小野塚一郎)

## 大学生協みやぎインターカレッジコープ

### ● 組合員への緊急物資提供と見舞金活動

みやぎインターカレッジコープ(以下、みやぎインカレ)は、仙台白百合女子大学・東北生活文化大学・聖和学園短期大学・仙台高専(広瀬・名取)に店舗・食堂があります。

今回の地震で、大学及び組合員に甚大な被害が発生しました。地震により、交通機関がマヒし、

各キャンパスとも数百人規模で帰宅できない学生が、キャンパス内に数日間避難しました。みやぎインカレは各キャンパスに、食品・飲料など緊急に無料で提供し、大学からも大変喜ばれました。店舗・食堂も被災し、電気水道ガスなどのインフラが長期間マヒしたため営業できない事態となりました。

また今回の震災により、組合員死亡7人、保護者死亡7人、自宅実家の全壊127件となりま

した。(6月末集計段階)全国の大学生協が募金活動をしたお金で、一人3万円の見舞金をお支払しました。

大学生協の見舞金活動に感動したある父兄の方から、100万円の出資金の申し出がありました。みやぎインカレでは通常2口10,000円ですが10口50,000円だけお預かりし、残りは地域生協に出資されたとのこと。

(専務理事 青柳範明)



みやぎ仙南農協

● 志津川漁協の炊き出しに参加しました

7月16日（土）JA みやぎ仙南営農経済部有志職員9人で、志津川漁協の炊き出しに参加しました。漁協の組合員とみやぎ生協共同購入部職員ら総勢120人ほどで行った産直かきの稚貝を養殖ロープに結わえる作業時の昼食提供です。

焼肉を中心に角田、丸森地区の産直野菜鉄板焼、冷水で冷やしたトマト、きゅうり、白石温麺、落成したばかりのJA漬物センターの小茄子一夜漬、ミニ胡瓜一本漬などが今回のメニューでした。

30代の米穀事務担当職員は、「志津川の炊き出しに参加し、想像を超える甚大な被害の傷跡がすごくショックでした。津波の恐ろしさ、本当に本当に感じました。被災された方々に『おいしいよ。』『遠くから来てくれてありがとう。』そして、『今度は何か困った事があったら仕事止めて助けに行くよ。』と強いお言葉を聞き、あきらめない粘り強さ、やさしさ、団結力を感じました。参加できて本当に良かったです。」と話しました。  
(営農経済部長 三戸部文夫)



牡蠣の稚貝をロープに結わえる作業



炊き出しの様子